

小学校外国語活動に関する掲示物の実態調査

本田勝久¹⁾ 山本長紀²⁾ 寺井千景²⁾

¹⁾千葉大学・教育学部 ²⁾千葉大学大学院・教育学研究科

A Research of Bulletin Board Supplies for Foreign Language Activities at Elementary School

HONDA Katsuhisa¹⁾ YAMAMOTO Takenori²⁾ TERAJ Chihiro²⁾

¹⁾Faculty of Education, Chiba University, Japan ²⁾Graduate School of Education, Chiba University, Japan

本研究の目的は、外国語活動の掲示物の使用について、その実態を探ることにある。公立小学校3校を対象に実態調査を行い、校内の掲示物を写真に収めるとともに、教員から掲示物のねらいなどを聞き取った。調査の結果、外国語活動に関する掲示物は8種類に分類でき、掲示場所は4種類であった。掲示物のねらいは「英語らしい雰囲気作り」のみと言っても過言ではなく、その他のねらいをもって掲示物が使用されている様子は聞き取り調査から明らかにならなかった。調査結果より、教員は外国語活動に関する掲示物の作成には熱心に取り組んでいるものの、その効果については十分に把握していないという考察に至った。その背景には外国語活動のための掲示物の有用性に関する研究が進んでいないことがある。外国語活動に関する掲示物の効果を明らかにし、外国語活動内外における掲示物の利用に関する方法論的な議論を活発に行う必要がある。

キーワード：外国語活動 (Foreign Language Activities) 掲示物 (Bulletin Board Supplies)

1. はじめに

2008年の小学校学習指導要領改訂により、外国語活動が必修化された。外国語活動では、他言語や異文化についての体験的な学習を通して、言語や文化について理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標とする。体を動かしながら他言語の表現を練習したり、実際にあるものに触れながら単語を学んだりする外国語活動のために、多くの小学校が外国語活動のための特別教室やスペースを確保している。また教室内外に様々な掲示物を貼り、児童が目で見たり手で触れたりして異文化を体験できるよう、工夫をしている学校も多く見られる。

2. 外国語 (英語) 活動のための掲示物について

小学校における外国語 (英語) 活動のための教室環境作りについて、『小学校英語活動実践の手引』(文部科学省, 2001)は「英語活動を円滑に楽しく進めるには、英語活動を行いやすいスペースをはじめ教材・教具を整備し、音楽や放送なども適度に活用して、いつでも目や耳で触れることができるようにするとともに、子どもも教師も意欲的に取り組めるような環境や雰囲気を作ることが大切である」(p. 56)と記している。その一例として、「玄関や出入り口のドアプレート」「廊下等の掲示コーナーの活用」「プレイ・ルーム (オープン・スペース)等の活用」による掲示物の使用が挙げられている。さらに『小学校英語教育の進め方改訂版』(岡・金森編著, 2009)は、「子どもたちが積極的に英語に慣れ親しみ、

英語を学ぶことへの意欲を持ち、その運用能力を高めていくためには、効果的な教育環境作りが必要」(p. 95)と、外国語活動における教室環境作りの重要性について記している。加えて、「英語のあいさつ表現や教室内の具体物の英語表記など、英語に関わるものを掲示すると、子どもたちにとって、普段から英語に自然に触れる機会になるとともに、英語の学習に対する意欲を高める」(pp. 95-96)効果が期待できるという記述もある。

このように外国語 (英語) 活動のための掲示物の重要性について様々な文献が記述しているものの、具体的にどのような掲示物が児童にどのような効果を及ぼすのかという科学的な説明はなされていない。これは、外国語活動の教室環境に着目した実証研究が日本においてなされておらず、外国語活動における掲示物の効果は未知数であることが背景にあると考えられる。どのような掲示物が児童の外国語活動へ取り組む姿勢や他言語の学習に影響を与えるのかを明らかにすることは、教育現場での外国語活動の取り組みへの支援になるのではないだろうか。

そこで本研究は、外国語活動のための掲示物の効果を探る一環として、どのような掲示物が使用されているのか、どのような場所に掲示されているのか、その掲示物を作成した教員はどのようなねらいをもって掲示物を作成したのかなどについて実態を明らかにする。

3. 研究課題

本研究は、外国語活動のための掲示物について、その種類、掲示場所、掲示物のねらいなどを教員への聞き取り調査を通して実態を明らかにする。

連絡先著者：山本長紀

4. 研究手法

関東にある公立小学校3校に調査依頼をし、筆者2名が小学校を訪問した。各小学校に掲示されている掲示物を写真に収めた。同時にそれら掲示物の作成に関わった教員に、掲示物のねらい、張り替えるペースなどについて聞き取り調査を行った。

調査は8月上旬から9月上旬に行った。この期間は各小学校の夏休み期間であった。

聞き取り調査は、各小学校の校長ないしはALTに協力をお願いした。

5. 調査対象の小学校について

A小学校は東京都内にある公立小学校である。平成20年度に文部科学省により英語活動の拠点校として指定を受け、平成21年度・22年度には区の教育研究推進校として研究に取り組んでいた。A小学校では第1学年から第4学年において英語に触れる活動を実施しており、第5・第6学年では外国語活動を行なっている。加えて、課外活動として国際交流活動が行われており、毎月1回ほどの頻度で国際理解に関する活動が参加を希望する児童を対象に行われている。この学校の外国語活動は各学級で行われている。活動のための特別教室は設けていないが、教材置き場として外国語活動専用の教室がある。

B小学校は千葉県にある公立小学校である。平成6年度より小学校における英語教育に関する研究校として指定されていた。現在、全学年において英語教育に関する時間が設けられている。この学校では、ほぼ全ての外国語活動が専用のスペースで行われている。また、そのスペースは高学年・中学年用と低学年用2つ設けられている。ALTは3名在籍しており、そのうち1名は常勤である。

C小学校は静岡県にある公立小学校である。C小学校は市の特認校に指定され、英語教育に関する研究を行っていた。この小学校には外国語活動専用の教室が1つあり、全学年の活動がこの教室で行われている。ALTは1名在籍しており、全学年の外国語活動の授業を受け持つ。

6. 調査結果

6.1 掲示物の種類

調査で写真に収めた掲示物は8種類に分類することができた。ここではそれぞれの掲示物を、写真を参照しながら紹介する。

6.1.1 単語学習用掲示物

これに分類される掲示物は、児童が日常生活で触れそうな物の名前を英語で示している掲示物である。外国語活動では、日常生活で触れそうな物を英語で紹介し、英単語を学ぶことが多いため「単語学習用掲示物」と名前をつけた。どの小学校もこの分類に入る掲示物を多く使用していた。その多くは市販の物（ポスター）が多かった（写真1）。加えて少数ではあるが、教員による手作りの掲示物（写真2）も見られ、それらは外国語活動で

取り上げられる題材と関連しているようであった。



写真1



写真2

6.1.2 アルファベット学習用掲示物

アルファベットとその文字を頭に持つ単語の絵とを載せるなどして、児童のアルファベット学習を促すような掲示物を「アルファベット学習用掲示物」と分類した（写真3）。その多くは市販の物が使用されていたが、手作りのもの（写真4）もあった。



写真3



写真4

6.1.3 学校の物の名前用掲示物

「単語学習用掲示物」とは異なり、学校生活で児童が触れる物に英語名を示している掲示物を「学校の物の名前用掲示物」と分類した。例えば教室の名前を英語で示したり（写真5）、金魚を飼っている水槽に「Fish Tank」と英語名を示していたりする掲示物（写真6）がここに

分類される。この掲示物はほとんどが手作りであった。



写真 5



写真 6

6.1.4 国紹介用掲示物

この分類に当てはまる掲示物は、国旗（写真7）や世界地図（写真8）などの掲示物である。前者には英単語が添えられていることが多いため、「単語学習用掲示物」と近い性質を持っている。しかし、世界にどのような国があるのかを知るという異文化理解に重きが置かれていると考え、「国紹介用掲示物」として分類をした。なお、この国紹介用掲示物の多くは市販の物が使用されていた。



写真 7



写真 8

6.1.5 定形表現用掲示物

外国語活動で多く扱われる挨拶表現や天気を言う時の表現などの決まり文句を示している掲示物を「定形表現用掲示物」と分類した（写真9）。市販のものを使用した掲示物もあれば、手作りの掲示物もあった。



写真 9

6.1.6 学習指導用掲示物

ここに分類される掲示物は、外国語活動の際に児童がどのような点に気をつけて英語を使うと良いかを示しているものである。写真10のように「笑顔で、目を見て、大きな声で」などを児童に分かりやすいように絵を添えて示している掲示物がある一方で、文字のみで示している掲示物もあった。この掲示物はすべてが手作りの掲示物であった。



写真10

6.1.7 雰囲気作り用掲示物

教室の一角に英語の絵本を置いたり（写真11）、教室の入口に「Welcome」と掲示したり（写真12）、校内の掲示板を利用して楽しい雰囲気を感じられるような英語の掲示をしている（写真13）掲示物を「雰囲気作り用掲

示物」と分類した。これらの掲示物の多くは手作りのものであったが、絵本など市販のものも使用していた。

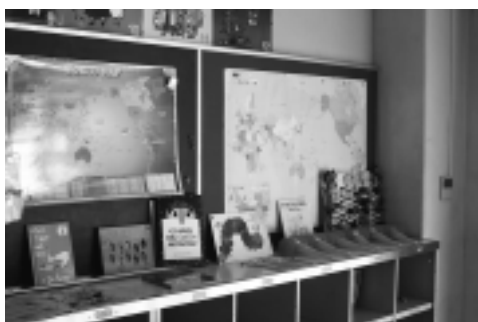


写真11



写真12



写真13

6.1.8 国際交流活動用掲示物

各小学校が行なっている国際交流活動に関する掲示物も見られた。一例として写真14はA小学校の掲示物で、A小学校が行なっている国際交流活動の様子を全校に紹介するものである。写真15はC小学校の掲示物で、新聞記事のような形でその小学校が行なっている外国語活動について紹介していた。ここに分類される掲示物はどれもその学校独自の活動内容に関するものであるため、すべてが手作りであった。



写真14



写真15

6.2 掲示物の場所

ここでは、上で分類した掲示物がどのような場所に貼られていたかを紹介する。

6.2.1 外国語活動用教室・スペースの内側

調査対象となった小学校はどれも外国語活動のための教室やスペースを設けていた。そのため多くの掲示物はその教室・スペースに貼られていた。

B小学校では、「単語学習用掲示物」は大人の目線ぐらいの高さで、教室の壁一面に貼られていた。

同校では「アルファベット学習用掲示物」も同様に貼られていたが、C小学校では教室内の掲示板を利用して掲示物が貼られていた。

「定形表現用掲示物」は、黒板の端や黒板の横など教室の前方や、出入口のすぐ横に貼られているものも多く見られた。

「国紹介用掲示物」のうち世界地図は教室の後方の掲示板に貼られていた。

同様に、「雰囲気作り用掲示物」も教室後方の棚の上を利用して掲示されていた。この掲示物は、教室前方の隅に机等を置いてできたスペースを利用して掲示されているものも見られた。

6.2.2 階段

「単語学習用掲示物」と「国紹介用掲示物」のうち国旗に関するものとは、階段の段差を利用したスペースに貼られていた(写真7)。

6.2.3 教室の外側

「学校の物の名前用掲示物」のうち教室の名前に関するものは、外国語活動用教室などの特別教室の扉の外側に貼られていた。「雰囲気作り用掲示物」の一部は、教室入り口の上部に貼られていた。

6.2.4 校内の掲示板

「国際交流活動用掲示物」は、児童がよく目にしそうな大きな掲示板に貼られていた。

C小学校では「雰囲気作り用掲示物」を児童玄関すぐ横に用意した掲示板上に貼り付けていた。

6.3 聞き取り調査の結果

聞き取り調査では、「何をねらいとして、掲示物を作っているのか」「誰がどれくらの頻度で掲示物を作っているのか」「掲示物を作成する際の注意点」の3点を聞くことができた。

6.3.1 掲示物のねらい

どの小学校も、児童が英語に親しめるように「英語らしい雰囲気を作る」を最も重要なねらいとして掲示物を作成・掲示していた。外国語活動用の教室・スペースを持つB、C小学校では、この部屋に来たら英語の時間と児童が切り替えられるように掲示物を作成したり、ALTの母校のような雰囲気（カラフルで明るく、英語がたくさんある）を作ったりすることを心掛けていた。外国語活動を行うための教室を持たないA小学校では、各教室に外国語活動で学習したことを掲示することで、外国語活動のための雰囲気作りをしているという話を聞くことができた*。

階段や教室の扉の外側などに「単語学習用掲示物」などを貼り付けていることについては、児童の目にふと止まるような場所に掲示物を貼るように気をつけているとのことだった。

なお、上記2点以外に掲示物のねらいについて聞き取ることができなかった。

6.3.2 掲示物の作成者と貼替えの頻度

A小学校では主な掲示物は学級にあることから、教員（学級担任）が掲示物の作成を行っていた。また貼替えの頻度は単元ごととしている。この小学校の外国語活動の掲示物は、活動の成果物であることが多いので、単元ごとの貼替えとなるとのことだった。学級以外にある掲示物は教員が作成するが、それほど頻繁に貼替えはされていない。

B、C小学校の掲示物はALTが作成したものがほとんどであったが、市販のものも使用されていた。特にB小学校では、教材などの作成はALTに任せられているため、掲示物もALTが作るようになっていた。市販のポスターなどの掲示物については、研究校の時に購入したものが多くとのことだった。貼替えの頻度について、B小学校ではあまり掲示物を貼替えすることができないとの話を聞くことができた。

6.3.3 掲示物作成の際の注意点

市販の掲示物の購入や、掲示物作成時のラミネートやカラープリントなどは予算の制約に十分配慮する必要があると、どの小学校の調査でも話を聞くことができた。特にB小学校は、研究校の時には市販の教材を多く買うことができたが、研究期間が終わると自由に掲示物を購入することが難しくなったとのことだった。

一方で市販の掲示物は長持ちするため、手作りの掲示物よりも良いという話も聞くことができた。

7. 考 察

外国語活動に関する掲示物の実態調査の結果、それら掲示物は大きく8種類に分けられた。掲示物の場所は4箇所に大別された。様々な掲示物が様々な場所に貼られているにもかかわらず、掲示物作成に関わった教員への聞き取り調査より、掲示物のねらいは「英語らしい雰囲気作り」のみと言っても過言ではないことが明らかとなった。これは、教員が外国語活動に関わる掲示物が、どのように児童の外国語活動への取り組み姿勢や外国語学習に影響を与えるのか把握できていないことによると考えられる。児童の目に止まりやすい場所に英単語の掲示物を貼ることも、児童の偶発的な英語学習が起こるだろうという希望的考えに基づき行われているだけであるとされる。

掲示物の作成が、外国語活動に専念できるALTに任されていることは、掲示物の作成は学級担任の教員にとって負担になっている裏返しではないかと考える。加えて、掲示物の貼替えの頻度がそれほど高くないことも、多かれ少なかれ掲示物作成が負担となっていることの現れではないだろうか。

8. 結 論

本研究では、外国語活動に関わる掲示物の種類、掲示場所、掲示物のねらい、掲示物の作成者、貼替えの頻度を明らかにした。その結果、外国語活動に関わる教員は工夫を凝らし様々な掲示物を様々な場所に掲示し、児童が英語に親しめるような「英語らしい雰囲気作り」をねらいとして掲示物を作成していることが明らかとなった。一方で、調査を通して、教員が外国語活動における掲示物が児童に与える影響や効果について、十分に理解できていないのではないかという考察に至った。加えて、掲示物の作成が教員の負担になっている可能性も垣間見ることができた。

これら現状を踏まえると、外国語活動における掲示物がどのような影響や効果を児童にもたらすのかを明らかにするとともに、外国語活動内外における掲示物の利用に関する方法的な議論を活発に行う必要があるのではないだろうか。

今後、外国語活動のための掲示物が持つ効果を明らかにし、その有効的な利用方法を開発するなどの研究を進めることで、「雰囲気作りの掲示物」を、「学びに繋がる掲示物」に変えていきたい。

謝 辞

本研究を行うにあたり、調査にご協力いただいた3つの小学校の校長、教頭、ALTの皆様、この場を借りて感謝申し上げます。

注

*調査期間が夏休みであったこともあり、A小学校において学級に掲示されている掲示物はすべて外されてい

た。そのため本調査においては、それらの掲示物については触れていない。

参考文献

文部科学省（2001）『小学校英語活動実践の手引』東京：開隆堂

文部科学省（2008）『小学校学習指導要領』東京：東京書籍

岡秀夫・金森強（編）（2009）『小学校英語教育の進め方 改訂版—「ことばの教育」として—』東京：成美堂

山本長紀（2012）「外国語活動を担う教員養成における英語力の育成に関する一考察」『中部地区英語教育学会紀要』第41号 119-124頁